

# ようこそ

ご勝縁に  
よろこび  
に  
会う



(上) 親鸞聖人750回大遠忌法要  
大海組団体参拝で  
円光寺より大智新院はじめ  
12名の同行がお参りました。  
(4月13日、御影堂・  
阿弥陀堂両堂前)



(左) 晃照住職、教恵坊守が  
法要初日にお参りました。  
(4月9日、御影堂前)

第 22 号  
浄土真宗本願寺派  
円光寺  
〒870-0108  
大分市三佐3-15-18  
TEL.097-527-6916  
FAX.097-527-6949

## 私たちのこころのふるさと

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がご本山(京都西本願寺)で四月九日から始まりました。来年一月十六日(祥月御命日)まで勤められ、全国から多くのお同行が参拝されます。親鸞さまは私たちに、苦難の人生にあつて、お念仏を依りどころとして力強く生き抜いていける道を教えてくださいました。待ちに待った五〇年に一度のご勝縁です。この尊いご縁に遇わせていただく喜びいっぱいにご一緒におつとめさせていただきます。

法要は御真影さま(親鸞聖人御座像)をご安置する御影堂でお勤まりです。大谷光真ご門主さまはこの御影堂を私たち浄土真宗門徒の「こころのふるさと」「宗門の要」とお示しです。

生まれ育った境遇はそれぞれ違い、さまざま生活ぶりの私たちですが、同じお念仏のみ教えに生かされつながっている私たちは、お念仏の仲間であり、きょうだい、家族であります。

ご本山は親鸞さまのお寺、私たちのこころのふるさとです。ふるさととは遠くにあつて思うものがあり、帰るところであります。帰るところがある安心です。阿弥陀さまのお浄土、一つ処に帰らせていただけると聞かせていただくなかに、私たちは共々にこの人生を歩んでいけるのです。

法要直前の三月十一日に東日本大震災が occurred。ご門主さまは「どんな苦しみにも寄り添ってください、いつでもどこでも阿弥陀さまと一緒であるというみ教えの根本から考え、むしろ困難な時こそ親鸞聖人のご生涯に学び、み教えを仰いで、私がどう生きるべきか考えつつ、おつとめさせていただけます」と、すべての被災された方々の悲しみに寄り添い、思いを分かち合う法要としたいと述べられています。

4日目(4月8日)くずは→本山



京都八幡

雨の中の京都入りになりました  
先人のご苦労が身にしみます



京都南IC付近



本山に到着

1日目(3月31日)竹田→野津原



光西寺様(竹田)を出発



大阪くずは(枚方市)

### お念仏の先人をたずねて

#### 4日間 110kmの旅

豊後竹田から歩いて京都西本願寺  
にお参りました。皆様のおかげです。  
ありがとうございました。



河野法一様(朝地)



大阪京橋



前へ前へ、歩く歩く  
(大分市三川)



ちょっと休憩(豊後大野市綿田)



常證寺様(神堤)

3日目(4月7日)大阪京橋→くずは

たくさんのお寺さん、ご門徒さんに  
あたたかく迎えていただきました

2日目(4月2日)野津原→三佐



円光寺(三佐)



各念寺様(高瀬)



専念寺様(竹矢)



安楽寺様(今市)

### 世々生々

東京電力福島第一原子力発電所の事故は未だに収束の見通しが立たず、周辺住民は大切な人を亡くし家を失い各地に避難して、古里に帰ることさえ許されない。風評被害は農業や水産、畜産関係者を中心に広がり生活を苦しめ続けている。◆「想定外の大変なことになった」と専門家も口をそろえる。人間の管理下にあった原発が突然制御不能のモンスターになったという事態。これまで国や電力会社は、絶対安全と説明して原発建設を推進してきた◆一方、世界で唯一の被爆国で放射能被害の恐ろしさを身をもって知る私たちが、原子力の平和利用の名の下もつと豊かで便利な生活を求めて、私たちが原発を支え増やし続けてきたともいえる◆コンビニに象徴される不夜城のような生活が当たり前のようになった。電気を大量に消費する生活スタイルを見直すだけではなく、私たちの人生観、価値観そのものが問われる◆放射能の影響が全く見えない、わからない。何十年後子や孫の世代にと、不安は尽きない。絶対ということがないこの人の世にあって、今こそ仏さまのみ教えに謙虚に耳を傾ける時ではないか。

お朝事「法話」より

悲しみのなかから

今日は東日本大震災発生から四十九日目、仏事としては満中陰にあたります。私たちの所では満中陰の法要に納骨するのが一般的ですが、今回の大震災では未だに行方不明の方が多く、今も毎日家族を捜している人がいらつしやいます。昨日は宮城県南三陸町で小さなお子さんが行方不明のお父さんが「毎日子どもを捜しています。見つかるまで捜します」と話していました。もう既に四十九日が経つわけですから、元気な姿で見つかるとは到底考えられません。しかし親は子を捜すんですね。子どもの名前を呼んで捜すんですね。私はそこにいのちのつながりを思っています。決してあきらめない。決して見捨てない。見つかるまで捜すんですね。

阿弥陀さまのご本願、この私を必ず救わずにはおかないというおはたらきを思います。

私の言うことを聞かない者は知らない、背を向ける者は放っておくと、どこまでも自分中心で、私の都合で敵・味方をつくり、苦しみ悩み迷いのなかに生きる私たちのすがたを見られた

法蔵菩薩さまは大変悲しまれました。そしてその悲しみの中からすべてのものを救おうという大きな願いをたてられ修行して、そのご本願を成就されました。そのおすがたがお立ち姿の阿弥陀如来さまであり、南無阿弥陀仏のお喚び声なのです。「まかせよ、救う」とずつとずつと以前からこの私を目当てに喚び続けてくださっています。どんなことがあっても決してお前を見捨てないよ。お前を救い取るまで私はずつとはたらき続けるよと、大きないのちのつながりのなかに、私たちはお互い生かされて生きていくのですね。

諸行無常のこの世を生きる私たちです。本当にままならない人生、思い通りにいかない生活を強いられる中にも、私たちはお念仏申しつつこの人生を生き抜かせていただき、この命終えてお浄土に生まれ悟りの仏さま



4月28日のお朝事で「東日本大震災49日法要」をお勤めしました

ご案内

- ◆常例法座  
7月15日(金) 10:00~11:30
- ◆子ども会サマースクール  
8月3日(水)~4日(木)
- ◆初盆会・盆おどり大会  
8月12日(金) 19:00~21:00
- ◆全戦没者追悼法要  
(平和を願う鐘つき)  
8月15日(月) 11:00~12:00
- ◆秋彼岸会  
9月22日(木) 11:00~14:00  
同 19:30~21:00  
9月23日(金) 13:30~15:00
- ◆敬老会  
10月6日(木) 11:00~13:00

“月に一度は  
お寺参りしましょう”

※詳しくは「寺通信」でご確認ください。

お朝事にお参りしましょう  
^ 毎朝6時30分~7時 ^

に成らせていただくのと聞かせていただきます。

ナモアミダブツとお念仏を申して被災地の状況が震災前に戻るといふことではありません。お念仏は奇跡を起こす教えではありません。お念仏を申しても、悲しいご縁にあつていかなければなりません。苦しい思いをしていかなければなりません。そうした苦難の人生にあつて、私たちは「人間に生まれてよかった」と、お念仏に生かされる喜びに救われていけるのです。

今皆さんと一緒に満中陰のお勤めをさせていただきました。大事なことです。ご法事は、大切な方のご縁に、その人をおもうということ。忘れないとい



子ども会水曜学校修了式(3月14日)  
6年生 5名が卒業しました

うことです。阿弥陀さまの大きなおはたらき、お救いのなかに共々に生かされてあることを聞かせていただき、これから長い長い時間がかかりますが、私にできる精いっぱいのことをさせていただきます。

(4月28日)

親鸞聖人七五〇回大遠忌  
大海組お待ち受け法要をおつとめしました

三月二日(水)〜六日(日)、大分グランシアタ



うでわ念珠作り

大智新院と水曜学校の子どもたちが一緒に作りました (3月2日)



におい袋作り

教恵坊守もスタッフでお手伝いしました (3月3日)



あんのん広場法話会

晃照住職がお話させていただきました (3月2日)



法要のようす

全体で1500名、円光寺から120名が参拝しました (3月5日)



吉本新喜劇のメンバーを囲んで

スタッフの皆さん、おつかれさまでした (3月6日)



大海組寺院紹介パネル

大智新院のアイデアで作りました



稚児行列

円光寺から、かわいいお稚児さん16名ができました (3月5日、ギャラリー竹町)



物品販売バザー

円光寺仏婦役員の皆さん、ありがとうございました (3月5日)

初参式



左から 河村たくまさん、菅なぎささん、池辺さきさん、児島いちかさん、児島りこさん (5月29日)



吉村順正講師 (高千穂 正念寺住職) (5月29日)

宗祖降誕会法要

新一年生を祝う会



左から 三浦ひろきさん、古野りゆうさん、油布えりかさん、足田あゆみさん、三浦かずまさん、三浦たくまさん (4月3日)



白象パレードのようす (海潮寺様前、4月3日)

花まつりの会

初めてのお取り次ぎ

あ と が き

お葬式が済んで満中陰まで七日七日のご縁に、ご遺族ご親族がたくさん集まって一緒にお勤めをさせていただく。悲しみのご縁だが、にぎやかである。梅雨にして真夏日、汗が噴き出る。クーラーが有難い季節になったが、節電に心がける現実。今の家は一つ屋根の下に、クーラー付きの個室が多くなった。仏さまのご縁に仏間にみんなが集まる。クーラーが入った快適な空間で、いのちのつながりを感じる。これこそ究極の節電対策。阿弥陀さまがご一緒の世界、何ともぜいたくなご縁である。



79名の門徒衆がお聴聞されました (3月18日)

春彼岸会法要で  
大智新院が法話

